

シニアネットワーク連絡会（SNW）セッション

原子力人材育成公募事業「世界最高水準の安全性を実現するスーパーエンジニアの育成」

MEXT Nuclear education project: To be a Super Engineer to Realize the World Class Nuclear Safety

(3) 学生とシニアの対話会の概要と成果**(3) Brief Overview and Results of Dialogue Meeting between Students and Seniors**石井正則¹¹ 日本原子力学会シニアネットワーク連絡会**1. 概要**

平成 27 年度、28 年度の 4 回のスーパーエンジニア育成研修では、研修最終日に学生とシニアの対話会を実施した。いずれの対話会も「過酷事故を未然に防ぐには」をメインテーマとし、学生から提示された「一般社会や地域社会の安全性と信頼性の理解促進」などを含め、討論や意見交換を交えて双方向性の高い対話を行うことができた。以下の対話会に概要と主な成果を示す。

2. 対話会の概要**2-1. 対話会の進め方****1) 往復書簡による事前意見交換**

対話会開催に先立ち、学生の関心事、質問事項、意見等を聴取し、当該学生と同じグループを担当するシニアから返信する、「往復書簡」スタイルのメール交換を実施した。参加学生の決定時期にもよるが、複数回実施できたケースもあった。

2) 基調講演による専門性の高い技術習得

対話に先立ち、前日に齋藤信三氏より「原子力発電所が二度と過酷事故を起こさないために一国、原子力界は何をなすべきか」をテーマに基調講演（北大）があり、安全と事故防止に関し体系的かつ具体的に説明していただいた。時宜を得たレベルの高い内容で、充実した対話を進めることができた。

3) 対話グループ編成とファシリテーション方式

対話は各回 15 名程度で 3 グループに分かれ、各グループ学生 5 名程度、シニア 2 名（シニアは各回合計 6 名）で対話を実施した。

対話推進に当たっては学生からファシリテータを選出、学生のファシリテーションによりの確に学生の関心事を引きだし対話を進めることができた。

2-2. 対話の主なテーマ

「過酷事故を未然の防ぐ」に関連した具体策などに加え、学生の懸念や関心が高かった以下のような話題が取り上げられた。報道問題、環境・GHG 問題」「新規発電所導入に関する様々な問題」など。

図 1 に北大でのシニアと学生の対話会の様子を示す。



図 1 北大でのグループ対話の様子

Masanori Ishii¹, ¹ Senior Network, AESJ

「一般社会や地域社会の安全性と信頼性の理解促進」「廃炉」「再稼働問題」「原子力の将来（エネルギーのうち、新規発電所建設に関しては、インドネシアの学生から HTTR への関心の高さがうかがえた。（北大、日立・GE、JAEA）図2、図3に北大研修、日立 GE 研修参加者写真を示す

3. 主な成果

日本のこれからの原子力再構築への期待と、とりわけ留学生からはアジア諸国の原子力への期待の大きさがうかがえ、頼もしく思えた。

対話終了後に行われた各グループからの対話で得られた成果発表からは、安全性の実証と確認はもとより、国民の理解促進にも有効なリスク指標ともなる安全目標と PRA による確認や、受動的安全性機能を組み込んだ新しい発電炉の思いなどが報告された。齋藤氏の基調講演と連動して行った対話の効果があったものと思われた。齋藤伸三氏が講演されや安全性向上にむけた対策は、学生たちにとって専門性の高い内容であるが、大変有意義だったことがわかる。

学生達には、21 世紀中葉に向けて日本の原子力界をけん引することが期待されるだけに、今回の一連のスーパーエンジニア研修がそのきっかけとなれば、この対話会に参画したシニアにとってこれに勝る幸はない。

これからますます発展して行くアジア各国の留学生からは、自国の原子力への熱い思いを聞かせてもらった。この研修が日本の原子力界再構築のみならず、アジア各国で原子力界を担う若者の育成にも貢献していることを改めて実感した。福島第一原子力発電所事故を乗り越えた安全性の高い発電所により、豊かなアジアを作ってもらいたいと熱望する。

4. アンケートに見る学生の意見

講演内容、対話内容とも全員から「満足」または「ある程度満足」との回答を得た。

本企画全体や若手の使命に関しては、

*責任の重さを感じた。頑張らなくてはならないと強く感じた。

*原子力の重要性を再認識できるよい機会だった。

*現在のテクノロジーを引き継ぎ発展させて行くことが私たち若者の使命。といった頼もしい意向が感じられた。

また、エネルギー、原子力問題では高速炉、とりわけ「もんじゅ」の廃止方向に危機感を示した学生が多かった。将来のエネルギー供給として、日本のような無資源国にとって高速増殖炉への期待は次世代を担う若者ならではであろう。

5. おわりに

福島後遺症で再稼働の進展がはかばかしくないが、それ以上に心配なのは 21 世紀中葉以降である。現在ある発電所はいずれ運転期間が満了する。準備期間を考えると、将来のこととして先送りする余裕はない。

一方これまで原子力界を支えてきたエンジニアは世代交代することになるので、今回スーパーエンジニア研修を受けた学生達には、これからの日本の原子力界を支えてもらいたいと強く期待する。

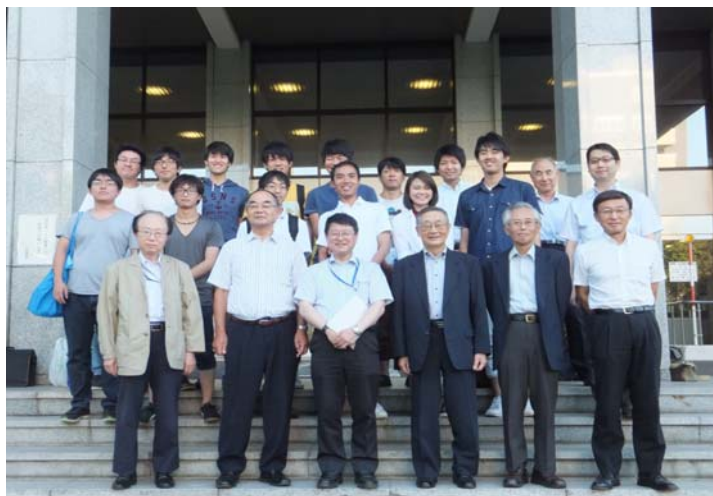


図2 北大研修に参加した学生、教員、シニアのメンバー



図3 日立 GE 研修に参加した学生、シニアのメンバー